

平成30年度 文部科学省事業  
学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究（学校を核とした地域力強化プラン）

---

# 全国フォーラム 事業報告書

平成31年3月15日

株式会社キャリアリンク

《目次》

## 2) 地域学校協働活動の質の向上、人材の育成等についての実証的な調査研究

1. 要項	P. 1
2. 全体総括	P. 2
3. 各地区実施報告	
・ 地域学校協働活動推進全国フォーラム in 東日本	P. 4
・ 地域学校協働活動推進全国フォーラム in 西日本	P. 17

## 1. 要項

### 1. 主旨

地域学校協働活動の効果的推進のための普及啓発方法等についての実証的な調査研究として、**地域学校協働活動の推進のための普及啓発方法のモデルを示す全国フォーラム**を東日本（東京）、西日本（大阪）の2か所で開催。本フォーラム内で使われたコンテンツについては、今後様々な地域での研修や普及イベントで活用いただけるよう映像化することも目的とした。

### 2. 概要

参加者の目的に応じ、事例発表やパネルディスカッション、ワークショップ等を取り入れて構成。詳細は以下の通りである。

	①東日本フォーラム	②西日本フォーラム
<b>日時</b>	2018年12月15日（土） 13：30～17：00	2019年1月19日（土） 13：30～17：00
<b>会場</b>	TKP 上野ビジネスセンター	グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
<b>協力</b>	静岡市教育委員会 東京都立園芸高等学校 NPO 法人まちと学校のみらい	奈良市教育委員会 高知県立山田高等学校 広島県教育委員会
<b>参加人数</b>	169名	140名
<b>第一部</b>	<b>【基調講演】</b> 「協働活動がもたらす教育の未来」  <b>【ワークショップ】</b> 「社会に開かれた教育課程実現のための学校地域連携理解ワークショップ」	<b>【基調講演】</b> 「協働活動がもたらす教育の未来」  <b>【ワークショップ】</b> 「社会に開かれた教育課程実現のための学校地域連携理解ワークショップ」
<b>第二部</b>	<b>【事例発表】</b> ①静岡市教育委員会 「学校・地域（よこのつながり）を推進するための体制づくり～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」  ②東京都立園芸高等学校 「社会に開かれた教育課程の実現にむけて～地域学校協働本部を核にした学校の活性化」	<b>【事例発表】</b> ①奈良市教育委員会 「学校に多様性を 地域学校協働本部と学校運営協議会ができること」  ②高知県立山田高等学校 「高知県立山田高等学校における学校地域協働本部を核にした地域協働の取組」
<b>第三部</b>	<b>【鼎談と会場交流】</b> 「変わる日本の教育と地域で育てる地域学校協働活動の意義」	<b>【鼎談と会場交流】</b> 「変わる日本の教育と地域で育てる地域学校協働活動の意義」

### 3. 映像コンテンツ【成果物】

1	映像 「社会に開かれた教育課程の実現をめざした学校と地域の連携・協働」	MP4形式	Web掲載可
2	映像 基調講演 藤原和博氏	MP4形式	Web掲載可
3	映像 東日本 事例発表① 静岡市教育委員会	MP4形式	Web掲載可
4	映像 東日本 事例発表② 東京都立園芸高等学校	MP4形式	Web掲載可
5	映像 西日本 事例発表① 奈良市教育委員会	MP4形式	Web掲載可
6	映像 西日本 事例発表② 高知県立山田高等学校	MP4形式	Web掲載可
7	鼎談 東日本フォーラム	MP4形式	Web掲載不可
8	鼎談 西日本フォーラム	MP4形式	Web掲載不可

## 2. 全体総括

今年度の全国フォーラムでは、“社会に開かれた教育課程”を実現するための“地域学校協働活動”の本質を、教育委員会・教員・地域コーディネーターに理解いただくためのコンテンツ開発も視野にいれ、東日本・西日本の二会場で開催をした。

今回の調査研究においては、フォーラム内容を映像コンテンツ化し文科省のWebサイトで公開、各自治体や学校で行われる研修やフォーラムなどでも活用するために、フォーラムで実施する内容に繋がりを持たせた普及啓発コンテンツを意識した。

全体構成の中での位置づけ		コンテンツ
【地域と学校の連携・協働の概念理解】	挨拶 事業映像	<p>●地域学校協働活動の概念とめざす姿（社会に開かれた教育課程を実現するためのビジョン）の概要理解</p> <p>冒頭、3分のご挨拶の後、“社会に開かれた教育課程の実現をめざした学校と地域の連携・協働”説明映像（約10分程度）を放映。地域学校協働活動について初めて聞く方にも理解ができるように映像を活用して、概要をひも解き、基本理解の土壌をつくる。</p>
【教育改革の方向性と地域学校協働活動のつながりの理解】	基調講演	<p>●学習指導要領改訂の本質理解</p> <p>●社会に開かれた教育課程の実現と地域学校協働のつながり理解</p> <p>①地域と学校の連携・協働の仕組、</p> <p>②外部人材・地域資源を活用することの重要性や必要性理解</p> <p>講師：藤原 和博氏</p>
【自校の現状と課題の把握】	ワーク シヨブ	<p>●社会に開かれた教育課程実現のための学校（自校）と地域の現状理解。特に、</p> <p>①自校で地域と学校の連携・協働の現状</p> <p>②外部人材・教育支援を活用する機会</p> <p>講師：若江 真紀</p>
【参加者から質問を収集】 ＝実践にむけた課題意識の可視化	質問カード 回収	会場から地域学校協働活動について知りたいこと、現在の課題を記入していただき、事前に回収。多かった質問や回答すべき質問を選定し、それにこたえる形式で鼎談を進行。
【社会に開かれた教育課程実現のためにコミュニティ・スクールや地域学校協働本部がどのように機能するか、外部人材を活用した連携・協働を、継続的に発展していくにはどのようにすべきかを事例から学ぶ】	事例発表① 【小・中の取組】	<p>●地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組みづくりに挑戦する小学校・中学校での取組事例（<u>学校を巻き込む施策を体系的に計画する教育委員会の事例</u>）</p> <p>事例選定にあたっては、<u>コミュニティ・スクールを推進し</u>、かつ地域ボランティアとの連携をはかる<u>学校応援団</u>や<u>学校支援地域本部事業を10年近く継続実施</u>する中で、<u>地域連携の組織的なノウハウがあること</u>、また<u>地域連携人材不足の課題を解決するための施策としてコーディネーターを育成推進する事例</u>から、参加者の地域連携・協働の課題を解決する学びを伝えられる自治体を選定。</p> <p>○静岡市教育委員会（東日本フォーラム）</p> <p>○奈良市教育委員会（西日本フォーラム）</p>
	事例発表② 【高校の取組】	<p>●地域創生の核となる高等学校における地域学校協働活動の取組理解</p> <p>両フォーラムで、高校事例を取り上げる理由としては、総合的な探究の時間が推進され、地域課題の解決や地域学校協働本部の必要性の議論が活発になると予想されるため。「社会に開かれた教育課程」実現と地域創生に有為な人材輩出のために、地域学校協働本部を立上げ推進している学校管理職の視点から、立ち上げるまでの経緯と機能するための課題や解決策、教員への理解促進策を行っている事例紹介できる高校を選定。</p> <p>○東京都立園芸高等学校</p> <p>○高知県立山田高等学校</p>
	鼎談	<p>●地域学校協働活動についての本質理解</p> <p>先に発表された基調講演や事例による価値づけを行うとともに、会場からでた課題（質問）に関して、深い理解を促すことができる実践経験を持つ登壇者により本質的な意見が深堀ができるように、パネルディスカッション形式ではなく、鼎談形式で実施。</p>

- 東日本、西日本フォーラムの各アンケート結果からは、地域学校協働活動の理解と共に啓発推進を図ることができたと考える。

**【参加者アンケート】**

Q：「社会に開かれた教育課程」を進める上で「地域と学校の連携・協働」の重要性について理解できた。

⇒東日本 98%、西日本 96%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と回答

Q：「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」の関係性について理解できた。

⇒東日本 86%、西日本 93%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と回答

Q：今後、「地域と学校の連携・協働」に参画または推進したいと思う。

⇒東日本 93%、西日本 95%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と回答

以上のことから、2回のフォーラムを通して、本事業のねらいにそった成果が得られたといえる。

また、実施上の課題としては、アンケートにもフォーラム会場の狭さと環境の悪さ（特に東日本フォーラム）が指摘された。低予算による土曜日開催で、全国から参加する200名規模のフォーラム会場（低予算・利便性）を準備するには、少なくとも6ヶ月前から予約する必要があることから、来年度同様のフォーラムを実施する際には、平日での開催なども視野にいれる必要がある。

### 3. 地域学校協働活動推進フォーラム

#### ■地域学校協働活動推進全国フォーラム in 東日本

##### 【概要】

<b>日時</b>	2018年12月15日(土) 13:30~17:00	
<b>会場</b>	TKP 上野ビジネスセンター 〒110-0015 東京都台東区東上野 2-18-7 共同ビル	
<b>対象</b>	169名	
<b>目的</b>	「社会に開かれた教育課程」を実現するためのビジョン、地域と学校の連携・協働の仕組み、外部人材・地域資源を活用していくための考え方や知見が体感できる内容とする。	
<b>実施協力</b>	静岡県教育委員会、東京都立園芸高等学校、NPO 法人まちと学校のみらい	
	<b>時間</b>	<b>内容</b>
<b>第1部</b>	13:30~ 13:45	【挨拶・事業主旨説明】 文部科学省 総合教育政策局 局長 清水 明
	13:45~ 14:30	【基調講演】 「協働活動がもたらす教育の未来」教育改革実践家 藤原 和博氏
	14:30~ 15:00	【ワークショップ】 「社会に開かれた教育課程実現のための学校地域連携理解ワークショップ」 株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀
<b>第2部</b>	15:10~ 16:10	【事例発表】 事例①静岡市教育委員会 「学校・地域（よこのつながり）を推進するための体制づくり ～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」 ・静岡市教育委員会 教育局 教育総務課 主幹兼社会教育係長 松永 浩久氏 ・静岡市立葵小学校 放課後子ども教室コーディネーター 中村 敦子氏
		事例②東京都立園芸高等学校 「社会に開かれた教育課程の実現にむけて～地域学校協働本部を核にした学校の活性化」 ・東京都立園芸高等学校 統括校長 徳田 安伸氏
<b>第3部</b>	16:10~ 17:00	【鼎談】 「変わる日本の教育と地域で育てる地域学校協働活動の意義」 ●パネリスト ・NPO 法人まちと学校のみらい 代表理事 竹原 和泉氏 ・文部科学省総合教育政策局地域学習推進課地域学校協働活動推進室室長 西川 由香 ・株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀  【挨拶・アンケート記入依頼】

## □会場の様子（写真）



### 挨拶・事業主旨説明



### 基調講演

#### 「協働活動がもたらす教育の未来」

和田中学校・一条高校での取組を事例に、学習指導要領改訂で重要視されている、資質・能力の育成、アクティブ・ラーニングを体感。また、管理職の立場から“カリキュラム・マネジメント”の重要性や“学校支援地域本部”を立ち上げた経緯などをご紹介いただき、社会に開かれた教育課程がめざすビジョンを理解する。



### ワークショップ

#### 「社会に開かれた教育課程実現のための学校地域連携理解ワークショップ」

事業主旨説明のビジョンや藤原氏講演で、地域学校協働活動や本部の必要性を理解した上で、自校の現状の課題や評価点について考察する。（自校の課題を明らかにした上で、事例紹介や鼎談の中で、課題解決策のヒントを得られるように準備を行う）

※時間調整のため短縮して実施したため上記のワークまでは実施できなかったが、終了後、複数の教育委員会やコーディネーターからワークショップコンテンツを使いたいと問い合わせがあった。



### 事例①

#### 「学校・地域（よこのつながり）を推進するための体制づくり ～社会に開かれた教育課程の実現に向けて～」

平成 34 年度に全市一斉に「静岡型小中一貫教育」を開始する動きの中で、地域と連携した教育の推進を  
かかげており、グローバル人材育成のための教育施策の一環として“しずおか学”など、地域と連動した  
教育施策を実施。

- ①全ての小中学校でのコミュニティ・スクール設置を推進
- ②全校で学校応援団活動を実施（10 年間でのべ 23 万人の参画）
- ③放課後子ども教室の全校への拡充
- ④学校・地域ひとつなぎコーディネーターの育成

において、組織的に人材確保・育成の仕組みづくりを行っている。また地域学校協働本部を 12 拠点設置し、  
地域本部コーディネーターを配置。

今回は、④学校・地域ひとつなぎコーディネーター養成講座での人材育成の工夫と養成講座の中での視察  
先（学校）での取組を中心に、教育課程における学校応援団との連携の工夫、放課後子ども教室を中心とし  
た継続的発展的な取組の工夫（放課後児童クラブとの連携）に焦点をあてた内容で紹介。



### 事例②

#### 「社会に開かれた教育課程の実現にむけて～地域学校協働本部を核にした学校の活性化」

学校経営目標の第一目標に、「社会に開かれた教育課程の」の先進モデルとしての実践を明確に打ち出して  
教育活動を実施。

「地域連携推進モデル校（国庫補助事業）の指定」を受け、地域資源や外部人材を活用し、生徒の社会的  
な自立に必要な力を育む教育をより実践するために、平成 29 年度「地域学校協働本部」を立ち上げ、学校と  
地域が組織的に連携・協働するためのネットワーク整備を開始。

地域学校協働本部は①総務部会 ②地域部会 ③学校・産業部会の 3 部会合計 21 団体が選出される地域  
コーディネーターで運営されている。「年間活動計画」のもと、学校側の管理職・担任団・教務部・保健清美  
部、園芸科、動物科、食品科、進路部、盆栽部、野菜部など、様々な学校関係者との連携の仕組みがなされ  
ている。

仕組みの実現にむけては、学校長のリーダーシップが不可欠であり、地域学校協働活動によりめざす生徒  
像のゴールイメージを関係者と共有、教員の意識醸成（学校経営目標の共有）とともに、地域コーディネ  
ーターの活用の工夫などを中心にノウハウを提示いただいた。



### 鼎談と会場交流

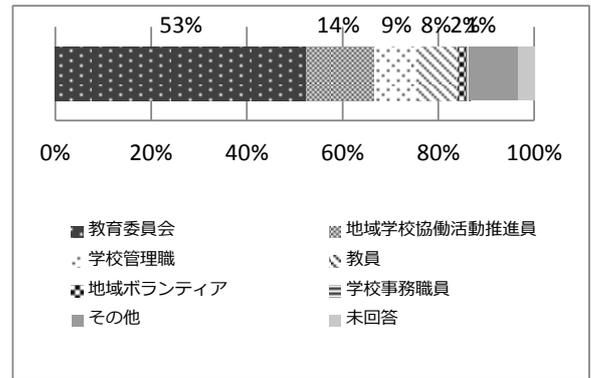
#### 「変わる日本の教育と地域で育てる地域学校協働活動の意義」

会場からの質問（カード）を織り交ぜながら進行を行う。3名の登壇者からの情報提供により、「社会に開かれた教育課程」を実現するためのビジョン、地域と学校の連携・協働の仕組み、外部人材・地域資源を活用していくための方法等が、事例の深堀や活動の価値づけを行いながら本質の理解ができるように鼎談形式で実施。東日本フォーラムでは、竹原氏により、地域コーディネーター視点の価値づけを中心に展開した。

## アンケート結果

### 参加者の属性

回答	回答数	構成比
教育委員会	63	53%
地域学校協働活動推進員（コーディネーター）	17	14%
学校管理職	11	9%
教員	10	8%
地域ボランティア	2	2%
学校事務職員	1	1%
その他	12	10%
未回答	4	3%
計	120	100%



1. あなたの地域の現状について教えてください。（教育委員会の担当者の方は自治体全体について

1) あなたの地域では地域学校協働活動が行われていますか？

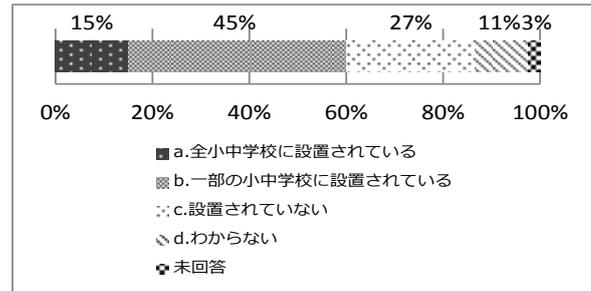
#### ■属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.十分に行われている	4	2	0	0	2	1	0	0	9
b.ある程度行われている	39	4	1	3	12	0	1	4	64
c.あまり行われていない	17	5	0	3	3	1	3	0	32
d.行われていない	3	0	0	0	0	0	0	0	3
e.わからない	0	0	0	3	0	0	7	0	10
未回答	0	0	0	1	0	0	1	0	2

N=120

2) あなたの地域の学校には学校運営協議会が設置されていますか？

回答	回答数	構成比
a.全小中学校に設置されている	18	15%
b.一部の小中学校に設置されている	54	45%
c.設置されていない	32	27%
d.わからない	13	11%
未回答	3	3%
計	120	100%



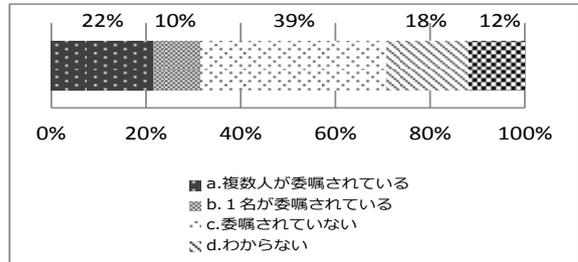
#### ■属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.全小中学校に設置されている	4	2	1	0	8	0	0	3	18
b.一部の小中学校に設置されている	37	5	0	2	6	2	2	0	54
c.設置されていない	22	4	0	3	2	0	0	1	32
d.わからない	0	0	0	4	0	0	9	0	13
未回答	0	0	0	1	1	0	1	0	3

N=120

3) あなたの地域では地域学校協働活動推進員が委嘱されていますか？

回答	回答数	構成比
a.複数人が委嘱されている	26	22%
b.1名が委嘱されている	12	10%
c.委嘱されていない	47	39%
d.わからない	21	18%
未回答	14	12%
計	120	100%



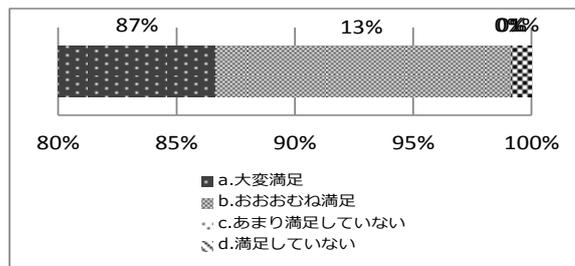
#### ■属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.複数人が委嘱されている	14	0	0	0	11	0	0	1	26
b.1名が委嘱されている	6	2	0	0	2	0	0	2	12
c.委嘱されていない	34	6	0	2	3	1	1	0	47
d.わからない	4	0	1	5	0	0	10	1	21
未回答	5	3	0	3	1	1	1	0	14

## 2. 本日のプログラムについて、ご意見をお聞かせください。

### a. 基調講演

回答	回答数	構成比
a.大変満足	104	87%
b.おおおむね満足	15	13%
c.あまり満足していない	0	0%
d.満足していない	0	0%
未回答	1	1%
計	120	100%



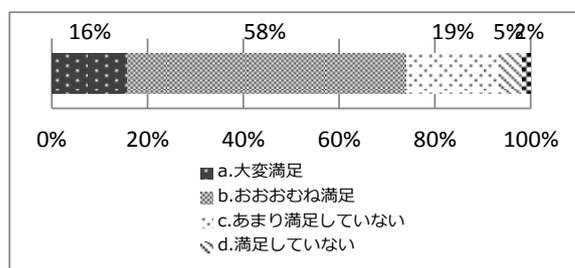
#### ■ 属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	56	10	1	8	15	0	10	4	104
b.おおおむね満足	7	1	0	2	2	1	2	0	15
c.あまり満足していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d.満足していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0	1	0	0	1

N=120

### b. ワークショップ

回答	回答数	構成比
a.大変満足	19	16%
b.おおおむね満足	70	58%
c.あまり満足していない	23	19%
d.満足していない	6	5%
未回答	2	2%
計	120	100%



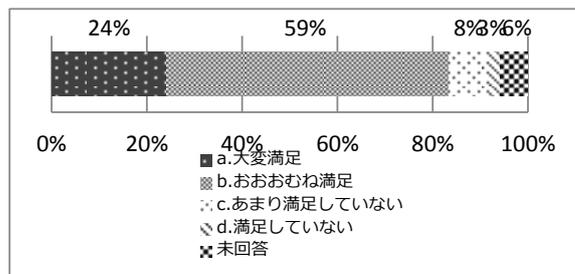
#### ■ 属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	10	3	0	1	3	0	2	0	19
b.おおおむね満足	35	6	1	7	10	1	6	4	70
c.あまり満足していない	14	1	0	2	3	1	2	0	23
d.満足していない	3	1	0	0	1	0	1	0	6
未回答	1	0	0	0	0	0	1	0	2

N=120

### c. 事例発表①

回答	回答数	構成比
a.大変満足	29	24%
b.おおおむね満足	71	59%
c.あまり満足していない	10	8%
d.満足していない	3	3%
未回答	7	6%
計	120	100%



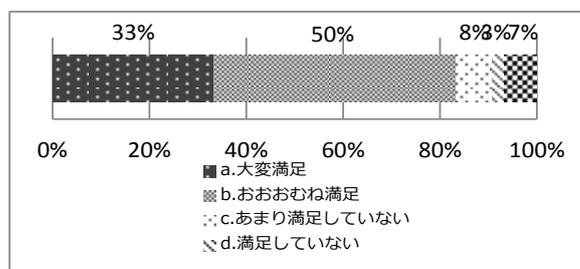
#### ■ 属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	19	3	0	1	4	0	2	0	29
b.おおおむね満足	35	5	1	7	12	1	6	4	71
c.あまり満足していない	4	1	0	1	0	1	3	0	10
d.満足していない	2	1	0	0	0	0	0	0	3
未回答	3	1	0	1	1	0	1	0	7

N=120

d. 事例発表②

回答	回答数	構成比
a.大変満足	40	33%
b.おおむね満足	60	50%
c.あまり満足していない	9	8%
d.満足していない	3	3%
未回答	8	7%
計	120	100%



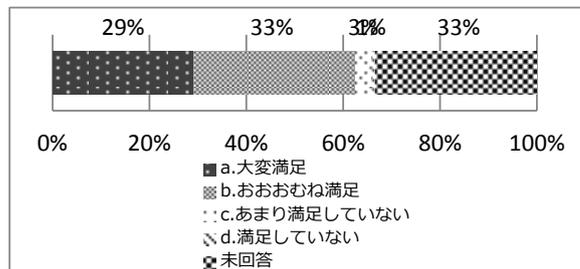
■ 属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	24	6	0	3	5	0	2	0	40
b.おおむね満足	27	4	1	4	10	2	8	4	60
c.あまり満足していない	6	0	0	2	0	0	1	0	9
d.満足していない	2	1	0	0	0	0	0	0	3
未回答	4	0	0	1	2	0	1	0	8

N=120

e. 鼎談と会場交流

回答	回答数	構成比
a.大変満足	35	29%
b.おおむね満足	40	33%
c.あまり満足していない	4	3%
d.満足していない	1	1%
未回答	40	33%
計	120	100%



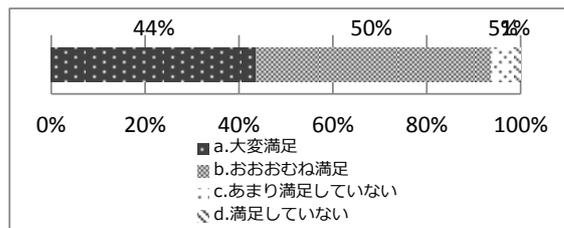
■ 属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	21	3	0	0	3	0	8	0	35
b.おおむね満足	18	3	1	4	9	1	2	2	40
c.あまり満足していない	2	0	0	0	1	1	0	0	4
d.満足していない	0	1	0	0	0	0	0	0	1
未回答	22	4	0	6	4	0	2	2	40

N=120

※参考：未回答を除いた結果（回答数 80）

回答	回答数	構成比
a.大変満足	35	44%
b.おおむね満足	40	50%
c.あまり満足していない	4	5%
d.満足していない	1	1%
計	80	100%



f. その他ご意見

- ・スクリーンが見にくかったのが残念でした。
- ・3.5)にも書きましたが、失敗例も知りたい。
- ・三人の女性の熱い思いが伝わってきた。スバラシイ！！

2) 上記で「大変満足」又は「おおむね満足」とご回答の場合、そのうち特に印象に残ったものについて、よかった(参考になった)理由について記号(a~f)もあわせてご記入ください。

#### 【基調講演】

- ・あと30~60分続けて頂き、さらに今回のテーマに深くささる内容をお聴きしたかったです。
- ・協働活動を行うべき、行わねばならない根拠が分かった。
- ・情報編集力について
- ・アクティブ・ラーニングで理解が深まった。
- ・刺激的な講演で、大変参考になりました。
- ・学校と地域コミュニティがどう協働していくか具体的に考える機会となった。
- ・自分の感覚がいかにかいがかがわかった。
- ・藤原さんの話。自分の言葉で話をするから。
- ・たいへんわかりやすかった。
- ・50分という短い時間でしたが分かりやすく、考えさせられる場面が多々ありました。内容がわかりやすく納得できる部分が大きかった。短時間で実践・体験も織りまぜ、実感を伴って考えることができた。
- ・話が面白く勉強になった。
- ・藤原先生の話は大変わかりやすかった。これからの教育のあり方の全体像が見えてきた。
- ・アクティブ・ラーニング(ワークショップ)型であつという間の講演でした。
- ・長く聞きたいと思えた。
- ・わかりやすく本質の部分を伝えてくださった。期待どおり。
- ・藤原和博さんは話が上手いし面白い。内容も興味深い。
- ・構造的に学校が成り立たなくなることが理解できた。

#### 【基調講演、ワークショップ、事例発表①】

- ・自分が市に持ち帰り説明者になった際、参考になる。

#### 【基調講演~鼎談と会場交流】

- ・全て勉強になりました。

#### 【事例発表①②】

- ・具体的で大変よくわかりました。中村さんのようなコーディネーターさんをどの地域にも見つけることができたらいいなあと思いました。高校での地域学校協働活動の姿がわかりました。

#### 【事例発表②】

- ・具体的な活動の紹介が多かったから。

#### 【鼎談と会場交流】

- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の関係性について、分かりやすく伝えていただいたから。
- ・竹原さんの実践(東山田中のCS化)に基づいたお話が、とても厚みと深みがあり、勇気づけられた。
- ・実践に向けて大変参考になった。

#### 【記号未記入】

- ・藤原先生の講義がアクティブ・ラーニング形式だったこと。ただ話を聞くよりも理解が深まりました。
- ・藤原先生の講義。これからの協働・連携の大切さがわかった。
- ・地域と学校の連携・協働をどのように捉えるか大変参考となった。
- ・現在の学校での学習内容と、地域連携・協働の必要性が明確になった。
- ・今、なぜ協働が必要なのかが改めて明確になった。
- ・地域と学校の協働の本質を突いたスピード感、緊張感のある内容でした。
- ・「社会に開かれた教育課程」について、様々な立場の方から様々な表現で伺うことができました。大変理解が深まりました。
- ・それぞれの発表が自分の地域につながるものであった。
- ・構造上の問題から、学校が地域と協働しなければならない状況であることがよく分かったから。
- ・社会に開かれた教育課程が求められる社会的背景について、より深く知ることができた。
- ・藤原先生のアクティブ・ラーニングの納得講演(live)。情報編集力こそ、今求められている。
- ・藤原さんの話はとてもわかりやすく、大変参考になった。
- ・藤原先生のお話が大変わかりやすかったです。
- ・ワークショップ形式で必要な部分を体感することができたこと。
- ・今後に必要な力がイメージできた。
- ・藤原先生のお話はとても示唆に富んでおり、参考になりました。

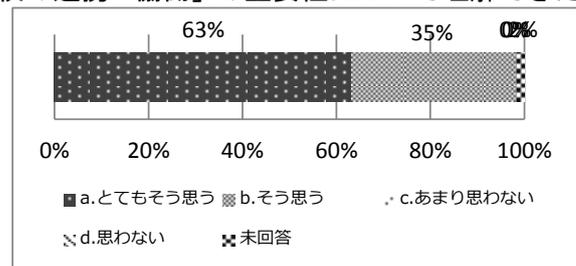
- ・情報編集力の大切さを、アクティブ・ラーニングの体験を通して学ぶことができた。素晴らしい講演だった。
- ・やはり藤原氏のお話はまさにアクティブ・ラーニング。こんな授業をすれば子供たちの力は否応なく伸びる。
- ・基調講演は大変わかり易く、スッキリした思いで見返しの視点をいただきました。
- ・ALを実体験できた。
- ・短時間でのグループワーク
- ・ビジョンが明確、具体例がたくさん。
- ・藤原先生のお話と静岡市の取り組みが良かったです。
- ・アクティブ・ラーニングの良さを実感。具体的で大変有益であり、楽しく学べました。今後活用していきたい。
- ・情報編集力の必要性が理解できたことです。
- ・基調講演わかりやすかった。
- ・藤原先生のお話は目からうろこで、心を動かされた。著書も是非読み、youtube も見てみたい！
- ・説得力があった。
- ・藤原氏の情報編集力の話
- ・事例も考え方も参考になった。
- ・現場知識をいきいきと語っていただけるとわかりやすいです。
- ・基調講演の内容が多岐にとみ、テンポ良く聴き応えがあった。
- ・藤原氏のライブ。学校のあり方を本気で変えていかなければならないことを理解したことから。
- ・地域学校協働活動が必要になる訳が良くわかった。一緒に活動している仲間にも話したいと思った内容だった。
- ・わかりやすかった。

※自由記述は文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

### 3. 本日のご参加を踏まえ、ご意見・ご感想をお聞かせください。

1) 「社会に開かれた教育課程」を進める上で「地域と学校の連携・協働」の重要性について理解できた。

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	76	63%
b.そう思う	42	35%
c.あまり思わない	0	0%
d.思わない	0	0%
未回答	2	2%
計	120	100%



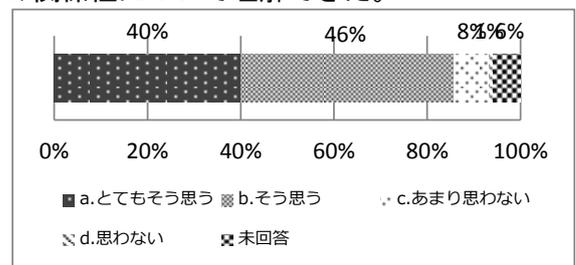
#### ■ 属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.とてもそう思う	45	7	0	6	7	0	7	4	76
b.そう思う	17	4	1	4	9	2	5	0	42
c.あまり思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
d.思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	1	0	0	0	1	0	0	0	2

N=120

2) 「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」の関係性について理解できた。

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	48	40%
b.そう思う	55	46%
c.あまり思わない	9	8%
d.思わない	1	1%
未回答	7	6%
計	120	100%



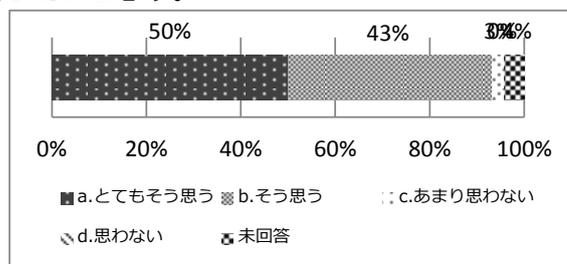
#### ■ 属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.とてもそう思う	33	3	0	2	5	0	4	1	48
b.そう思う	23	6	1	7	9	1	5	3	55
c.あまり思わない	2	1	0	1	2	1	2	0	9
d.思わない	0	1	0	0	0	0	0	0	1
未回答	5	0	0	0	1	0	1	0	7

N=120

3) 今後、「地域と学校の連携・協働」に参画または推進したいと思う。

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	60	50%
b.そう思う	52	43%
c.あまり思わない	3	3%
d.思わない	0	0%
未回答	5	4%
計	120	100%



■属性別内訳

回答	教育委員会	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.とてもそう思う	41	3	0	2	7	0	6	1	60
b.そう思う	19	8	1	8	7	0	6	3	52
c.あまり思わない	0	0	0	0	1	2	0	0	3
d.思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	3	0	0	0	2	0	0	0	5

N=120

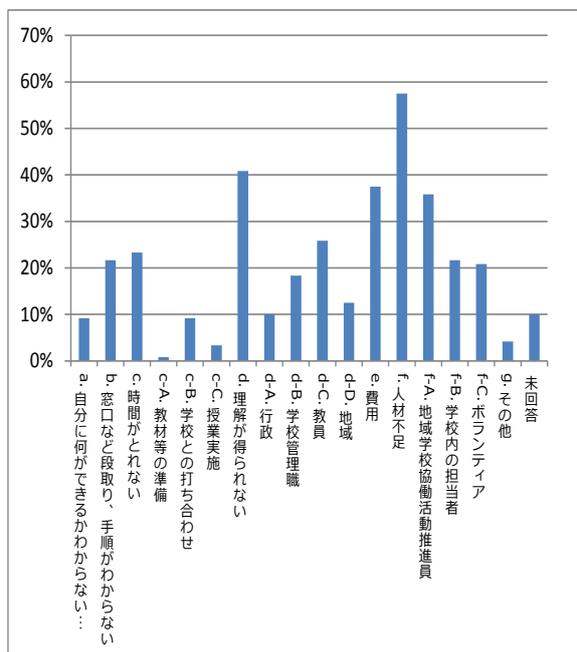
具体的にどのようなことをしたいですか？

- ・社会（地域）への理解、促進
- ・持続可能な仕組みづくりと、つなぐ人材の養成
- ・放課後、土曜日の地域人材の活用
- ・学校関係者への周知
- ・より、実現に向けた具体的推進方法を紹介したい。
- ・社会教育課とテーブルを囲んで話をする。
- ・推進していくために、まず理解を図る。
- ・地域学習から始めたい。
- ・放課後の活動でより協働することで、子どもに様々な力をつけさせてあげたい。
- ・CSを作る。教頭がコーディネーターや事務局にならない。コーディネーターや事務局も外部にやってもらう。
- ・学びの場へ地域の力をお借りする。
- ・地球文化、生活、社会問題、自然を題材に情報編集力を育てていきたい。
- ・小・中・高、それぞれの事例を調べたい。
- ・今日のお話しも一つの方法と思うが、他のやり方もあると思う。
- ・高齢者と児童、生徒との連携により、地域課題を解決する。
- ・行政側に人材育成講座の開講を要望したい。
- ・学校関係者であるため、子どもを地域に出したい。

※自由記述は文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

4) 「地域と学校の連携・協働」に参画または推進していくにあたり、課題となることは何ですか。（複数回答可）

回答	回答数	相対度数
a.自分に何ができるかわからない（テーマや方法など）	11	9%
b.窓口など段取り、手順がわからない	26	22%
c.時間がとれない	28	23%
c-A.教材等の準備	1	1%
c-B.学校との打ち合わせ	11	9%
c-C.授業実施	4	3%
d.理解が得られない	49	41%
d-A.行政	12	10%
d-B.学校管理職	22	18%
d-C.教員	31	26%
d-D.地域	15	13%
e.費用	45	38%
f.人材不足	69	58%
f-A.地域学校協働活動推進員	43	36%
f-B.学校内の担当者	26	22%
f-C.ボランティア	25	21%
g.その他	5	4%
未回答	12	10%



## g. その他コメント

- ・土台となるコミュニティ・スクールの体制づくりが進まない。
- ・推進員の要求水準が高度であり、確保が困難
- ・誰をコーディネーターにするか。マンパワーだと持続が難しい。公民館の館長？地元でよくつながりのある立場（人）は誰か？
- ・文科と現場の互いの理解
- ・全員が研修会にでて資質を深めるための交通費等の予算。
- ・まずは互いを知ること（情報共有）、更に互いの関係性構築
- ・多忙感にさいなまれている学校の一部に更に多忙感がのしかかる。（決して多忙感解消につながるという確証はもてない）

※自由記述は文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

## 5) 今後、「地域と学校の連携・協働」について知りたいことは何ですか。

- ・学校と地域の協働の大切さは理解できるが、学校も地域も受け入れ体制ができていないので、今は何をどうやって行ったらよいか検討もつきません。
- ・教員の養成について、現状と課題。
- ・活動期間、スケジュールをどこでプログラミングするか？人材育成をどうするか。行政の腰の重さをどうするか。
- ・10人の生徒に対して10通りのやり方があると思われる。
- ・資質を伴う人材確保が大事。制限・性別・他、時間帯（活動力）・（学校での）立ち位置
- ・私の場合、予算措置（文科省、都、区）・支援に対しての費用？
- ・推進員がキーマンと思うが、人材を求められるだけの費用があるのか、具体的な回答がなかったのが残念でした。
- ・地域から参画する人たちへの報奨は考えられなくてよいでしょうか。持続可能性という観点で。
- ・これまで長くPTAに関わってきましたが、よく聞かれることの一つに「PTAと何が違うの？PTAじゃダメなの？やるが増えるの？」などの問いがあります。ストンと納得いただける答えがあればなあ、と思います。
- ・教育の多忙改善に活用していきたい。
- ・このプロジェクトの中心となるべきは学校なのか、教育なのか、地域住民なのか。
- ・学校が求めてこないのが、本当に必要なことなのか知りたい。
- ・どこまで学校内に入り込んでいいのか。校長により違ってしまう。

※自由記述は文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

## 4. 本日ご参加されてのご意見、ご感想等、自由にご記入ください。

- ・教育委員会や学校関係者、地域に理解をしてもらうために、誰かに事例などを話してもらうことばかり考えていました。しかし、藤原先生のような方は沢山はいません。自分でも伝えていけることがあるのではと思ってきました。帰って伝えていきたいと思います。
- ・とても参考となることの多い研修会でした。
- ・一つ一つのプログラムにもう少し時間的な余裕があるとよかった。ここまで学校と地域の連携・協働がなくてはならないものであるならば、推進員の配置、教員の分掌（地域連携委員）も含め、地域学校協働本部、学校運営協議会を「必置」とすることを文科省として明言してほしい。
- ・コミュニティ・スクールは国としてぜひ「必置」として、どうか総合教育政策局として、ここは”トップダウン”で！！明言を！地域学校協働活動が真に生きる枠づくりを強く進めていただくと、自治体は進めやすくなります（人づくり、仕組みづくり）。
- ・学校側への強い働きかけ…立ち位置明確に
- ・地教委・校長の意識変革…もたっている（担当者がいない。社会教育主事）
- ・共有をスタートに！…”デザイン思考”で課題に臨む、地域ぐるみで！協働への理解
- ・大変よい学びになりました。戻ってみんなに伝えたいと思います。
- ・私にとってCSの新たなスタート、一步の研修会になりました。
- ・とても勉強になりました。もう一度勉強し直し、考えてみたいと思います。自分のモヤッとしたものが少し解消されました。
- ・大変有意義で学びの多い時間でした。半日であるのが残念…。ゆとりを持って一日開催がいいのではないか。
- ・内容の濃いフォーラムであり、大変参考になりました。
- ・学校教育と社会教育の連携の必要性。
- ・大変参考になりました。
- ・藤原先生の講演をはじめ、今の子ども達のためにつけたい力は何か、もっと我々が認識しなければと思った。
- ・すべてのプログラムが、それぞれの色がありよかった。
- ・大変勉強になりました。大きな刺激をいただきました。
- ・大変すばらしいフォーラムでした。

- ・学校運営協議会と地域学校協働の違いというか、それぞれの役割等がしっかり見えてきました。どちらかあれば…ではなく、双方がという点が大切だと思いました。
- ・とても勉強になりました。
- ・貴重なお話を伺うことができました。
- ・近未来を可視化して伝える必要がある。
- ・これからコミュニティ・スクールを入れるにあたり、来週、コーディネーター会で活かす際の参考となりました。
- ・地域に参加する時に仕事として休みがとれると、より参加しやすく人材が集まりやすいですし、幅広い世代の大人とのコミュニティーがつながると感じました。学校・地域・家庭がそういうことでつながれるといいと思います。
- ・具体的にどのようにCSや協働本部を運営していくのか、予算や例をもっと聞きたかったです。
- ・改組のこと、協働の具体をうかがえて参考になりました。協働のよさを伝えていきたいです。
- ・まさにこれから必要となっていくテーマでしたので、楽しみながらも緊張感をもって参加しました。
- ・大変ありがとうございました。私は社教主事として働き、現在、副校長として学校運営にかかわり、今とても楽しいです。後押しのお言葉を頂戴いたしました思いでおります。
- ・地域の人は何年も学校に居ると偉そうに振るまい、職員に指示をだすようになっていく。管理職の在年数は短い。そのようなコーディネーターはいない方がよい。
- ・学校教育に地域の参加・連携・協働が不可欠である。
- ・大変有意義な研修でした。
- ・地域との協働のノウハウを教えてくださいました。あとはやる気、本気度の問題でしょうか。とっかかりのエネルギーかな、と思います。
- ・基調講演とワークショップの内容が重なっていたので、ワークショップ不要。
- ・とても勉強になり、考えさせられました。
- ・教育課程編成中であり、2020年度新学習指導要領全面实施に向け悩みが大きいですが、大きな刺激を受けました。
- ・法的効力を強めなくては、推進していくことは難しいと感じている。行政を軸に発信していくことで、日本全体に普及していくと感じます。
- ・他に、まだこのようなテーマでのフォーラムがなかったので、大変勉強になりました。また参加したい。
- ・保護者の方々の中には、学習指導や生活指導や部活動指導において、“学校は当たり前に行く”ことという認識がある方がまだまだいる。それを協働的に取り組んでいくためのものにする手段、今の教育の姿勢を保護者の方々や社会にいかに伝えていくかが今後の課題であるように思えた。
- ・とても勉強になりました。
- ・東日本で開催する場所があまりにも老朽化していて狭く、今後もう少し聴きやすい場所を考えるべきだと思います。
- ・立ち位置の確認を学校とキッチンとやっていきたいと思いました。
- ・盛りだくさんで、もう少し長い時間があつた方がよかった。
- ・行政側が学校改革のために積極的に動き出してもらうために、今日の研修会に一人以上参加してほしいと思う。
- ・10年後、20年後の今の小中学生が、どのような育ち方をするのか？社会適応？コミュニティ・スクールに不参加の生徒は？
- ・やはり今回のような地道な啓発が大事かと思いました。
- ・すばらしい学びになりました。
- ・全国各地で本日のようなフォーラムが必要かと思えます。学校や教育委員会の中には、このムーブメントが早く去ってくれと思っている方がいます。イッカツ入れてほしいくらいです。のんびりやればいい、とか焦る必要はないという方にもイシキ改革を！！
- ・藤原和博さんの存在感がハンパなかった…感動した。
- ・地域と学校の連携について疲れてきていた頃だったので、元気がでました。
- ・またやって欲しい。未来については興味がありますが、教員が変わらないと生徒は変わらない。教員のレベルに差があり50代のやる気のない先生が多く、若い教員の目標や尊敬にならない。先生のやりがいがない。早く昭和の上からの圧力の教育をやめて欲しい！！
- ・会場に課題。スクリーンの下の方、パネル、講演者の顔が見えない席が多すぎた。
- ・フォーラムは勉強になりましたが、会場が狭い、フラットですね。
- ・もっと広い会場だとスクリーンが見やすく良かったと思います(参加料を徴収しても)。資料(スライド)がほしいと思うものもありました。
- ・会場の選び方：見にくい(白板、パワポ)
- ・プログラム：時間が足りない。盛りだくさん過ぎ⇒開催時間の工夫が必要かと…。”
- ・今回の会場は、発言者が見えないという致命的な欠点があった。大学の講義室を借りるなどできなかったものかと感じる。
- ・会場が他の所はなかったのか。真ん中から後ろはほとんど見えない。キャリアリンク代表の人の声がききとりにくい。

※自由記述は文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

■地域学校協働活動推進全国フォーラム in 西日本

【概要】

<b>日時</b>	2019年1月19日(土) 13:30~17:00	
<b>会場</b>	グランキューブ大阪(大阪国際会議場) 〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51	
<b>対象</b>	140名	
<b>目的</b>	「社会に開かれた教育課程」を実現するためのビジョン、地域と学校の連携・協働の仕組み、外部人材・地域資源を活用していくための考え方や知見が体感できる内容とする。	
<b>実施協力</b>	奈良市教育委員会、高知県立山田高等学校、広島県教育委員会	
	<b>時間</b>	<b>内容</b>
<b>第1部</b>	13:30~ 13:40	【事業主旨説明】 事業主旨映像
	13:40~ 14:40	【基調講演】 「協働活動がもたらす教育の未来」教育改革実践家 藤原 和博氏
	14:40~ 15:05	【ワークショップ】 「社会に開かれた教育課程実現のための学校地域連携理解ワークショップ」 株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀
<b>第2部</b>	15:15~ 16:10	【事例発表】 事例①奈良市教育委員会 「学校に多様性を 地域学校協働本部と学校運営協議会ができること」 ・奈良市教育委員会事務局 地域教育課 課長 小林 正典 氏 ・奈良市教育委員会事務局 地域教育課 地域学校連携推進員 羽原 亜紀子氏 事例②高知県立山田高等学校 「高知県立山田高等学校における学校地域協働本部を核にした 地域協働の取組」 ・高知県立山田高等学校 校長 濱田 久美子氏
<b>第3部</b>	16:10~ 17:00	【鼎談と会場交流】 「変わる日本の教育と地域で育てる地域学校協働活動の意義」  ●パネリスト ・広島県教育委員会 教育長 平川 理恵氏 ・文部科学省総合教育政策局地域学習推進課地域学校協働活動推進室室長 西川 由香 ・株式会社キャリアリンク 代表取締役 若江 眞紀  【挨拶・アンケート記入依頼】

## □会場の様子（写真）



### 基調講演

#### 「協働活動がもたらす教育の未来」

和田中学校・一条高校での取組を事例に、学習指導要領改訂で重要視されている、資質・能力の育成、アクティブ・ラーニングを体感。また、管理職の立場から“カリキュラム・マネジメント”の重要性や“学校支援地域本部”を立ち上げた経緯などをご紹介いただき、社会に開かれた教育課程がめざすビジョンを理解する。



### ワークショップ

#### 「社会に開かれた教育課程実現のための学校地域連携理解ワークショップ」

事業主旨説明のビジョンや藤原氏講演で、地域学校協働活動や本部の必要性を理解した上で、自校の現状の課題や評価点について考察する。（自校の課題を明らかにした上で、事例紹介や鼎談の中で、課題解決のヒントを得られるように準備を行う）

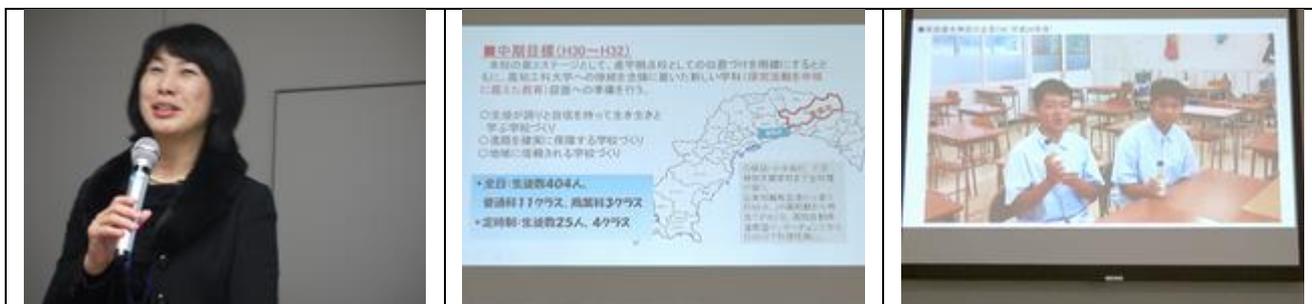
※西日本フォーラム会場では、東日本フォーラムの課題を受けて、短縮して実施。終了後、東日本フォーラム同様に、複数の教育委員会やコーディネーターからワークショップコンテンツを使いたいと問い合わせがあった。



### 事例①

#### 「学校に多様性を 地域学校協働本部と学校運営協議会ができること」

平成20年より設置されていた「学校支援地域本部」を発展させ、地域学校協働本部としての機能をもつ「地域教育協議会」による教育支援活動や、地域協働活動が活発に行われているなど地域連携の組織的なノウハウがあること、また地域連携人材不足の課題を解決するための施策としてコーディネーター育成の仕組みの事例から、参加者が課題意識として持っているコーディネーター・ボランティア人材不足への課題解決策と、継続・発展的な活動実施の解決策を学べる事例を紹介いただいた。



## 事例②

### 「高知県立山田高等学校における学校地域協働本部を核にした地域協働の取組」

郡部校ならではの特色を活かし地域と協働して50年後の地域を支えられる生徒を育成したいという思いから、平成28年度、地域と協働した課題探究学習を開始。同年、地域学校協働活動を実現させるべく「山田高校学校地域協働本部」を設置して推進。仕組みの実現にむけては、学校長のリーダーシップが不可欠であり、地域学校協働活動によりめざす生徒像のゴールイメージを関係者と共有、教員の意識醸成（探究学習のカリキュラムをつくりあげる研修手法の工夫）とともに、地域連携コーディネーターの活用の工夫などを中心にノウハウを提示いただけた。特に香美学園都市として、地元の小学校や中学校との連携など、高校での活動にとどまらない取組も特徴の一つ。地域協働本部の取組としては、探究学習における地域協働の他に、部活支援員配置や、放課後や土曜英語塾における支援も実施。



## 鼎談と会場交流

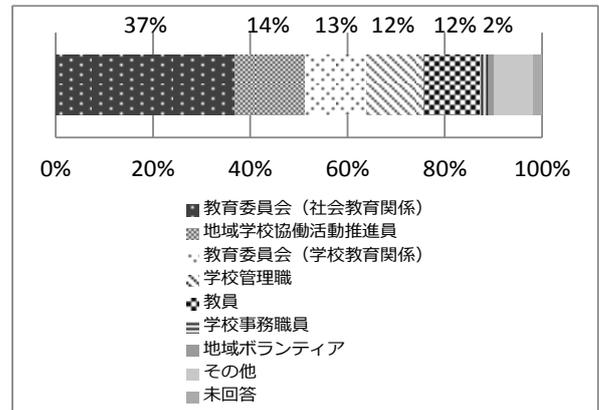
### 「変わる日本の教育と地域で育てる学校協働活動の意義」

会場からの質問（カード）を織り交ぜながら進行、予想される質問に対して3名の登壇者からの情報提供により、「社会に開かれた教育課程」を実現するためのビジョン（＝コミュニティ・スクールと地域学校協働本部が両輪で行うことの効果）、地域と学校の連携・協働の仕組み（＝学校長のリーダーシップ、教職員への理解促進）、外部人材・地域資源を活用していくための方法（＝コーディネーターやボランティアの確保）等を、事例の深堀や活動の価値づけを行いながら本質の理解ができるように進行された。西日本フォーラムは平川氏により、学校管理職・運営視点で展開された。

## アンケート結果

### 参加者の属性

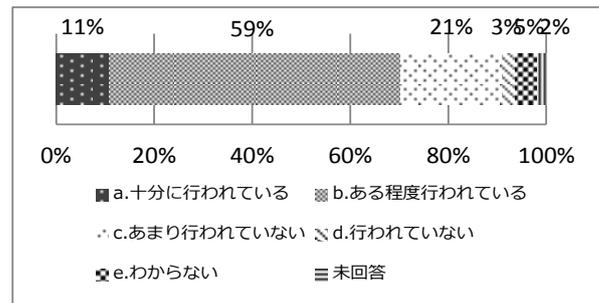
回答	回答数	構成比
教育委員会（社会教育関係）	41	37%
地域学校協働活動推進員（コーディネーター）	16	14%
教育委員会（学校教育関係）	14	13%
学校管理職	13	12%
教員	13	12%
学校事務職員	2	2%
地域ボランティア	1	1%
その他	9	8%
未回答	2	2%
計	111	100%



1. あなたの地域の現状について教えてください。（教育委員会の担当者の方は自治体全体について）

1) あなたの地域では地域学校協働活動が行われていますか？

回答	回答数	構成比
a.十分に行われている	12	11%
b.ある程度行われている	66	59%
c.あまり行われていない	23	21%
d.行われていない	3	3%
e.わからない	5	5%
未回答	2	2%
計	111	100%



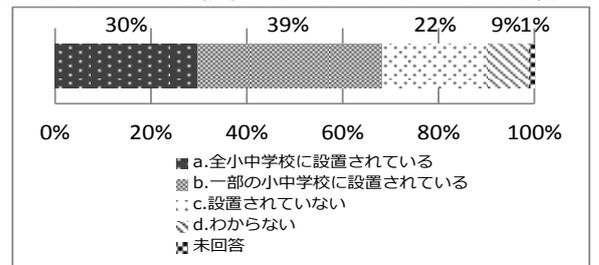
### ■属性別内訳

回答	教委（社会）	教委（学校）	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.十分に行われている	4	0	3	0	1	3	0	1	0	12
b.ある程度行われている	27	10	6	2	6	11	1	2	1	66
c.あまり行われていない	8	3	3	0	5	1	0	2	1	23
d.行われていない	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3
e.わからない	0	0	0	0	1	0	0	4	0	5
未回答	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2

N=111

2) あなたの地域の学校には学校運営協議会が設置されていますか？（地教行法に基づかないものは除く）

回答	回答数	構成比
a.全小中学校に設置されている	33	30%
b.一部の小中学校に設置されている	43	39%
c.設置されていない	24	22%
d.わからない	10	9%
未回答	1	1%
計	111	100%



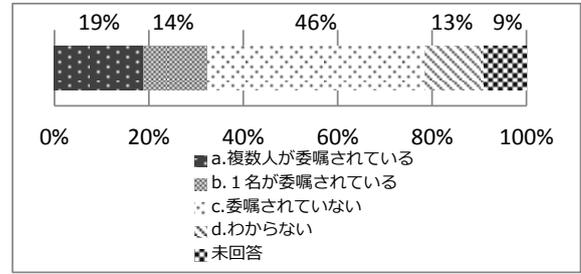
### ■属性別内訳

回答	教委（社会）	教委（学校）	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.全小中学校に設置されている	11	1	4	1	4	11	0	1	0	33
b.一部の小中学校に設置されている	20	7	3	0	4	5	0	2	2	43
c.設置されていない	10	4	6	1	2	0	0	1	0	24
d.わからない	0	1	0	0	3	0	1	5	0	10
未回答	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

N=111

3) あなたの地域では地域学校協働活動推進員が委嘱されていますか？

回答	回答数	構成比
a.複数人が委嘱されている	21	19%
b.1名が委嘱されている	15	14%
c.委嘱されていない	51	46%
d.わからない	14	13%
未回答	10	9%
計	111	100%



■属性別内訳

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.複数人が委嘱されている	8	1	2	0	2	6	0	2	0	21
b.1名が委嘱されている	4	3	2	0	0	6	0	0	0	15
c.委嘱されていない	26	8	6	1	5	3	0	0	2	51
d.わからない	1	0	0	0	5	0	1	7	0	14
未回答	2	2	3	1	1	1	0	0	0	10

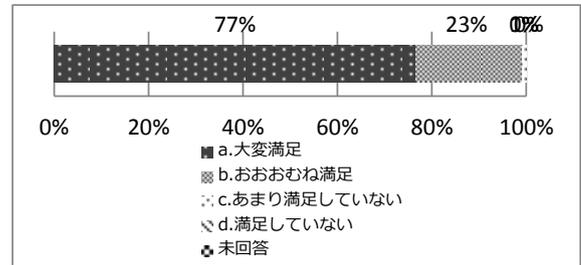
N=111

2. 本日のプログラムについて、ご意見をお聞かせください。

1) 今回のプログラムについて、お教えてください。(各項目1つ選択)

a. 基調講演

回答	回答数	構成比
a.大変満足	85	77%
b.おおむね満足	25	23%
c.あまり満足していない	1	1%
d.満足していない	0	0%
未回答	0	0%
計	111	100%



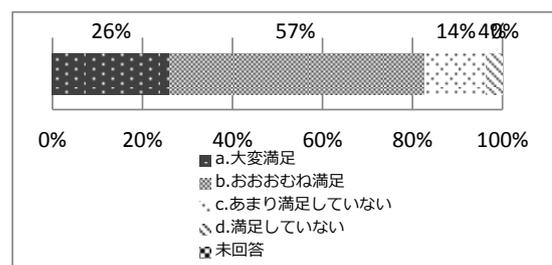
■属性別内訳

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	35	9	12	2	12	8	1	4	2	85
b.おおむね満足	5	5	1	0	1	8	0	5	0	25
c.あまり満足していない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
d.満足していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

N=111

b. ワークショップ

回答	回答数	構成比
a.大変満足	29	26%
b.おおむね満足	63	57%
c.あまり満足していない	15	14%
d.満足していない	4	4%
未回答	0	0%
計	111	100%



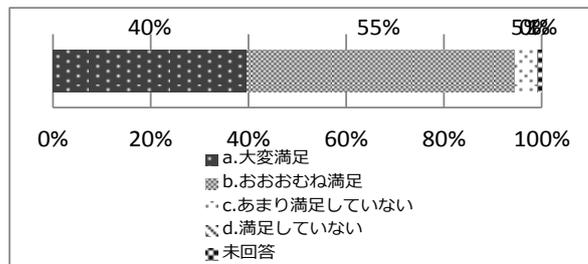
■属性別内訳

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	6	2	5	1	7	5	1	1	1	29
b.おおむね満足	25	9	5	1	6	10	0	6	1	63
c.あまり満足していない	8	2	2	0	0	1	0	2	0	15
d.満足していない	2	1	1	0	0	0	0	0	0	4
未回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

N=111

c. 事例発表①

回答	回答数	構成比
a.大変満足	44	40%
b.おおむね満足	61	55%
c.あまり満足していない	5	5%
d.満足していない	0	0%
未回答	1	1%
計	111	100%



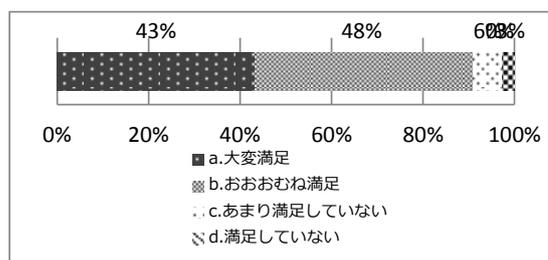
■ 属性別内訳

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	16	4	6	2	7	6	1	1	1	44
b.おおむね満足	23	9	6	0	6	9	0	7	1	61
c.あまり満足していない	2	1	1	0	0	0	0	1	0	5
d.満足していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

N=111

d. 事例発表②

回答	回答数	構成比
a.大変満足	48	43%
b.おおむね満足	53	48%
c.あまり満足していない	7	6%
d.満足していない	0	0%
未回答	3	3%
計	111	100%



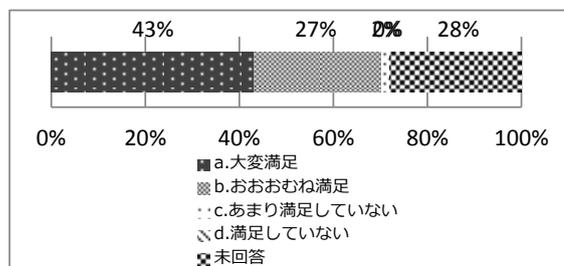
■ 属性別内訳

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	16	3	7	2	8	5	1	4	2	48
b.おおむね満足	22	10	4	0	5	7	0	5	0	53
c.あまり満足していない	3	1	2	0	0	1	0	0	0	7
d.満足していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3

N=111

e. 鼎談と会場交流

回答	回答数	構成比
a.大変満足	48	43%
b.おおむね満足	30	27%
c.あまり満足していない	2	2%
d.満足していない	0	0%
未回答	31	28%
計	111	100%



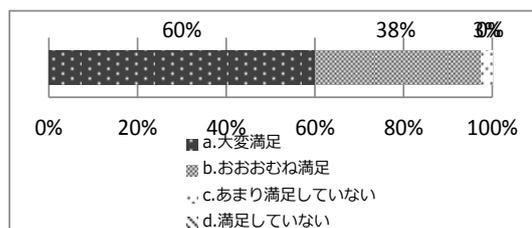
■ 属性別内訳

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.大変満足	16	7	9	1	7	5	1	1	1	48
b.おおむね満足	13	4	1	1	3	2	0	6	0	30
c.あまり満足していない	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
d.満足していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	12	3	2	0	3	8	0	2	1	31

N=111

e. 鼎談と会場交流 ※未回答除く

回答	回答数	構成比
a.大変満足	48	60%
b.おおむね満足	30	38%
c.あまり満足していない	2	3%
d.満足していない	0	0%
計	80	100%



## f. その他ご意見

- ・ bはaと重なる部分が多く、むしろbをなくしてaを長くしていただきたいかった。
- ・ 地域で子どもという宝を！
- ・ はっきりと言う3人による鼎談に、背中を押していただいた気持ちです。
- ・ bのワークショップは必要なかった。
- ・ 鼎談と会場との交流というが、一方的な知識の伝えになっていたような…。
- ・ 会場が狭い。
- ・ 理解が深まった。

2) 上記で「大変満足」又は「おおむね満足」とご回答の場合、そのうち特に印象に残ったものについて、よかった（参考になった）理由について記号（a～f）もあわせてご記入ください。

### 【基調講演】

- ・ 学校職員ですので、明日からの学校運営等に直接示唆いただけた内容だったから。
- ・ 意識の高揚（地域学校協働活動に対する）につながった。
- ・ bを省いてaを20分増やして欲しいというのが本音です。失礼な言い方で申し訳ありません。
- ・ 基調講演の藤原さんの話のテンポがよく、話に引き込まれました。また、よく理解できました。
- ・ 勉強になった。
- ・ 今後求められる編集力を身につけるためには、地域の力（かかわり）が不可欠であること。
- ・ プレスト、ディベートなどを実際に体験しながらのお話は分かりやすかったです。
- ・ 「なるほど！」と、聞き手が主体となるような講演であった。
- ・ 藤原先生のなぜこれから社会に開かれた教育をしていかなければならないのか、大変わかりやすかったです。
- ・ そもそもなぜ地域と連携をしなければならないか、よく分かったので。
- ・ 仮説と四択の話
- ・ 大変ためになった。
- ・ 豊かなご経験に基づき、改革の入口（ヒント）を具体的に示していただきました。
- ・ なぜ地域との協働が必要かよく理解できた。
- ・ 今後の教育の進むべき道筋
- ・ 藤原氏のお話を聞きたいと思っていたので。
- ・ 時間制約なしで、じっくりと拝聴したいと感じました。
- ・ 視野が広まる話だった。
- ・ 地域社会の力の必要性、重要性を実感できた。
- ・ 今後の社会の動きと変化をわかりやすい事例を挙げて話しをしてくださり、考えやすかったから。
- ・ 基調講演が特によかった。
- ・ 基調講演、とてもわかりやすく、またエネルギーをもらえた。
- ・ とてもわかりやすかった。
- ・ 情報編集力というものについて

### 【基調講演～鼎談と会場交流】

- ・ 全ての話が実践にいかすことができる。

### 【基調講演、事例①②】

- ・ これからの子どもたちに求められる資質能力がとても良くわかった。
- ・ 協働本部とコミスクの関係性や進め方が参考になった。

### 【基調講演、事例②】

- ・ 藤原先生の話術と話で、ワクワク感が高まった。山田高校の校長の意欲ひとつで地域を変えることが一番。校長が変われば、学校も地域もすべて変わる。（私も同体験をした者として）

### 【基調講演、鼎談と会場交流】

- ・ 藤原先生のお話が聴きたくて参りました。期待どおり元気ももらいました。パネラーの皆さまも力強く元気がでました。
- ・ 今、なぜ地域と学校が協働していかなければならないかが良くわかりました。
- ・ 短い言葉ではっきりとクリアーでわかりやすかった！！
- ・ 藤原さんの新しい、今後必要となる学力について。
- ・ 西川室長の文科のねらい、学校本丸の考え方。
- ・ 藤原さんの熱意がすごく伝わった。
- ・ 平川教育長もよかった。

**【事例①】**

- ・市教委のスタンス。10年間という長いスパンでの推進の仕方。

**【事例②】**

- ・高知山田高校の取りくみが当町の高校でも参考になった。
- ・山田高校の事例での、1～3年生それぞれの地域との関わりが明確だった。

**【鼎談と会場交流】**

- ・平川教育長のお話
- ・平川教育長のお話をぜひとも聞きたかったので、大いに参考になった。
- ・学社融合を国で組織としてしてくれたのがよかった。

**【記号未記入】**

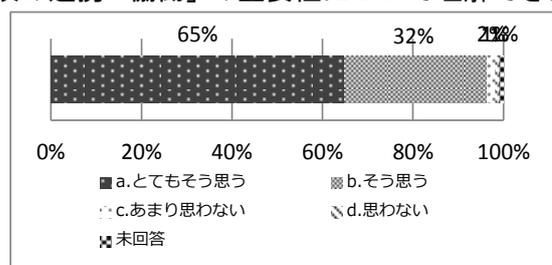
- ・アクティブな活動があって、主体的に参加ができました。
- ・藤原氏の「情報編集力」の話
- ・疑問が紐解かれるような内容のプログラムが多かった。
- ・社会に関わるために必要なものを順序立てて説明されていたから。
- ・各企業の動向や社会教育について勉強不足のため、私自身の理解がもう一歩でした。
- ・すばやい話と押しつけが思考を開かせる。私のゆっくりとした納得が、忘れかけていた脳の振れを感じました。
- ・地域学校協働活動のキモについて理解を深めることができました。
- ・なぜコミュニティスクールか、が十分理解できた。
- ・必要性の背景や実践について学ぶことが多かった。
- ・社会の変化の中で見通しが立ちにくい、その中でどんな力を子どもにつけていくのか、また、考えが凝り固まったわれわれ教員自身が学ぶ必要性を考えることができたから。
- ・今、なぜ地域学校協働活動なのかよくわかった。
- ・羽原さん、濱田さんの発表が理解し易かった。
- ・地域学校協働活動をどう進めていくか、見通しがもてた。
- ・私も高校生の力（高校の課題、意識）について考えていたから。
- ・ワークシート
- ・持ち帰るおみやげがたくさんできた。

※自由記述は文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

**3. 本日のご参加を踏まえ、ご意見・ご感想をお聞かせください。**

1) 「社会に開かれた教育課程」を進める上で「地域と学校の連携・協働」の重要性について理解できた。

回答	回答数	構成比
a.とてもそう思う	72	65%
b.そう思う	35	32%
c.あまり思わない	2	2%
d.思わない	1	1%
未回答	1	1%
計	111	100%



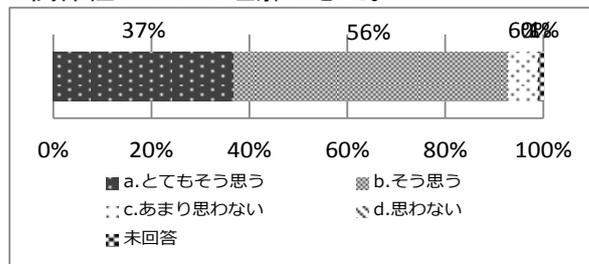
**■属性別内訳**

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.とてもそう思う	29	8	10	1	6	8	1	7	2	72
b.そう思う	11	5	2	1	7	8	0	1	0	35
c.あまり思わない	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
d.思わない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
未回答	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

N=111

2) 「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」の関係性について理解できた。

回答	回答数	構成比
a.とても思う	41	37%
b.そう思う	62	56%
c.あまり思わない	7	6%
d.思わない	0	0%
未回答	1	1%
計	111	100%



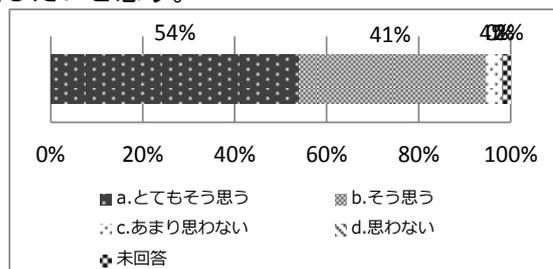
■属性別内訳

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.とても思う	29	8	10	1	6	8	1	7	2	72
b.そう思う	11	5	2	1	7	8	0	1	0	35
c.あまり思わない	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
d.思わない	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
未回答	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

N=111

3) 今後、「地域と学校の連携・協働」に参画または推進したいと思う。

回答	回答数	構成比
a.とても思う	60	54%
b.そう思う	45	41%
c.あまり思わない	4	4%
d.思わない	0	0%
未回答	2	2%
計	111	100%



■属性別内訳

回答	教委(社会)	教委(学校)	学校管理職	学校事務職員	教員	コーディネーター	地域ボランティア	その他	未回答	合計
a.とても思う	24	5	8	1	8	8	1	4	1	60
b.そう思う	16	8	4	1	4	7	0	4	1	45
c.あまり思わない	1	1	0	0	0	1	0	1	0	4
d.思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未回答	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2

N=111

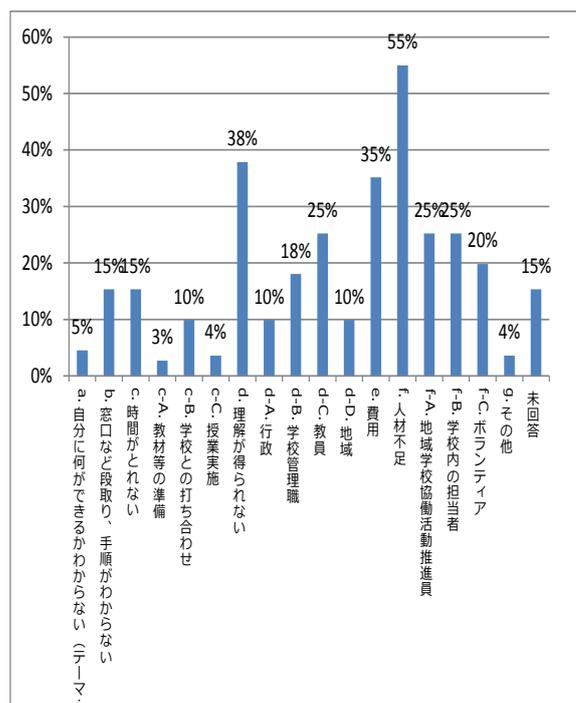
具体的にどのようなことをしたいですか？

- ・校内の職員への研修の復講
- ・まずは研修の実施から
- ・4月からCSを導入します。
- ・CSを推進する市町を支援し、その成果を波及していく。
- ・地域と共にすすめる教育活動（特に授業）
- ・コーディネーター
- ・連携・協働の地域における仕組みづくり
- ・目的の共有
- ・体制作り
- ・コーディネーターとして地域と学校をつなげる。
- ・市内の学校、地域、保護者に考え方を広め、CSを地域コーディネーター育成と並行して進めていきたい。
- ・各小中学校に核となる推進員を育成していく。
- ・自己肯定感を高めること、生きる力をつけること。
- ・出島作り
- ・地域の人材確保と地域とのつながりを強めること。
- ・地域の人へのアピール（理解を深める）
- ・学校を閉鎖から解放へと進めていきたい。
- ・まずは土台づくりからスタートすべき所が多いと思う。

※自由記述は文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

4) 「地域と学校の連携・協働」に参画または推進していくにあたり、課題となることは何ですか。  
(複数回答可)

回答	回答数	相対度数
a.自分に何ができるかわからない(テーマや方法など)	5	5%
b.窓口など段取り、手順がわからない	17	15%
c.時間がとれない	17	15%
c-A.教材等の準備	3	3%
c-B.学校との打ち合わせ	11	10%
c-C.授業実施	4	4%
d.理解が得られない	42	38%
d-A.行政	11	10%
d-B.学校管理職	20	18%
d-C.教員	28	25%
d-D.地域	11	10%
e.費用	39	35%
f.人材不足	61	55%
f-A.地域学校協働活動推進員	28	25%
f-B.学校内の担当者	28	25%
f-C.ボランティア	22	20%
g.その他	4	4%
未回答	17	15%



g. その他

- ・ 仕組み作り
- ・ 教育委員会のやる気が感じられない。市教委の誰ひとり今日のフォーラムに来ていない。(府のやる気も感じられない)
- ・ 目的(学校教育目標)が目指す姿で描かれていないという現状。学校教育の中に社会教育という考え方に気づかせること。
- ・ 児童、生徒、学校がかかえる課題

※自由記述は文意を損なわない範囲で語句等の加筆修正を行っています。

5) 今後、「地域と学校の連携・協働」について知りたいことは何ですか。

- ・ さらに具体的な実践例(成功例)
- ・ この課題を推進するにはどうしたら良いのでしょうか?学校管理職次第では、なかなか推進していかないと思います。
- ・ 次年度、コミュニティ・スクールがスタートします。具体的に学校運営委員会をどのように行えばよいのか。(回答があったのでよかったです)
- ・ 知らない人を減らす。
- ・ 評価の仕方について
- ・ 学校職員への理解を深める方法(どうしても大変だという意識が強いです)
- ・ 小・中・高との取組みは今後の必要性、重要性を感じた。
- ・ 人材の発掘方法
- ・ 地域が主体となって実際に教育課程を編成している様子(もちろん教育課程の編成権は学校にあるのですが…)
- ・ コーディネーター配置の財源等の捻出が難しい。
- ・ 地域の意識。協力する人は多いが、核となる人の育成はどう進めるとよいか。
- ・ CSに係る学校運営協議会発足から、協働活動が機能するまでの道筋について、大きな動きをつくり出すための仕掛け。
- ・ 現行の団体、実働の地域連携(一部の学校)している所を変えていく方が難しい。”モデル”とか言う場合じゃないのはわかるけど、どうすればいいでしょう…。
- ・ 後継者育成(コーディネーター)について
- ・ 地域学校協働活動推進員をどのように育てていったらよいか。
- ・ 各学校、各自治体の主体性がどの程度認められているのか?
- ・ どのような意識で親が受けとめ、進学・学力との注目度や賛同を得ているのか。
- ・ 職員にどのように必要感をもたせ、協働するように動かすのか。
- ・ CSと協働活動との効果的な連携。
- ・ コーディネーターに関する予算を、全国の自治体はどうつけているか。
- ・ 学校教育のしんどさを理解することが、「地域と学校の連携・協働」につながる。
- ・ 地域の活性化にどうつなげられるか。

#### 4. 本日まで参加されてのご意見、ご感想等、自由にご記入ください。

- ・遠い所からの参加でしたが、とても有意義なフォーラムでした。
- ・コミュニティ・スクールのフォーラムで学校教育のこれからの全体図を見れたような気がします。参加できてよかったです。
- ・一体的な推進について文科省の説明は分かりにくいです。新しい資料もよく分からないなと思いました。
- ・今日のお話だと、「学校運営協議会」ではなく「地域教育運営協議会」へ移行していく必要があると感じた。
- ・壁を超えるヒントをたくさんいただき、ありがとうございました。
- ・とてもよく理解できた。事務職員として窓口として、連絡調整や地域との架け橋になりたいと思った。
- ・ありがとうございました。楽しかったです。
- ・沢山メモしたい事があり一応板は持参しましたが、机があるとバタバタせずよかったかな…と。
- ・地域との関わりについて、学校ホームページにアップしていきたいと思います。
- ・とても参考になりました。
- ・「来てよかった」これが実感です。2019年4月、CSスタートです。2年がかりで準備してきて待たなし。今日をきっかけにいいスタートがきれそうです。勇気をもらいました。
- ・遠くから来ているので30分でも早く始めるとか、話は時間を守って話してほしい。どうしても実践発表とか自分の言いたいことは長くなりがちです。限られた時間の中で効率よく話すよう指導してください。
- ・自分の勤務校はもちろん、自分の住む地域で社会に開かれた教育課程の推進に力を入れたい。
- ・地域活動（自治会）にかかわり2年程度の経験で、今後は地域の諸団体と連携、また、自治会の活性化を目指しているところです。これからが楽しみです…。
- ・基調講演が、その後のb～fにつながっていたか（最後までご参加いただけるとよかったのでは？）。会場の問題であろうが、後方の席よりスクリーン（半分から下の方）が見えなかった。発表者をスクリーンに写すということは、「見えづらいから」であるはず。
- ・市全体でこの事業を推進したい。
- ・今日の藤原先生の話各校長先生に直接聞いてもらう機会がないと、なかなか変革は難しいと感じています。
- ・今、開設の準備をしていますが、大変参考になりました。
- ・参加してよかった。
- ・大変勉強になりました。まだ未来に向けてどうなるか、答えは出ていないのですが。
- ・ニーズはあるので各地域（地方毎）での研修があるとありがたい。
- ・地域学校協働活動をH20年度に開始。来年度はCSを設置する予定。そのためのヒントを求めて参加しました。
- ・進めていく意識、そして、その具体をセットで聞かせていただき、とてもわかりやすかったです。ありがとうございました！！
- ・最後の西川室長のCSと本部の新しい図を使った説明も動画アップしてほしいです！！
- ・自分自身が勉強する必要性を感じました。
- ・私1人のコーディネーターで、本市で何ができるだろうか？と考えると不安しかない。でも、本当にこれからの子どもには必要な環境であり、教員の助けにもなることを沢山のの人に理解してもらい、みんなが幸せになれるように私は頑張りたい。
- ・学校運営協議会の中へ、担任も入れるという発想を取り入れてみたいと思いました。
- ・勉強になりました。
- ・またの機会にも参加したいと思います。
- ・平川教育長の話が参考になった。やりたいことがない校長が印象的だった。
- ・現在の学校運営協議会のあり方を見直すことができた。
- ・基調講演、何となく思っていたことが整理できてよかった。
- ・もう少し広い場所で開いてほしいと思いました。やや閉塞感を感じましたので。パネルディスカッションの女性3名に圧倒されました。私も頑張らねば！
- ・地域学校協働活動の重要性がよく分かった。
- ・今日の研修をうけて、地元教職員とともに協働活動を推進できるよう、対話を深めていきたい。
- ・大変勉強になりました。活かします。
- ・とてもよかったです。これを「良い」と思う人を増やしたいです。社会教育の感覚かもしれませんが。
- ・とても学びが多く、充実していました。
- ・新学習指導要領の実施に向けて刺激になりました。
- ・学校教育が教育の本丸でない！いい言葉です！

平成30年度 文部科学省事業  
学校と地域の新たな協働体制の構築のための  
実証研究（学校を核とした地域力強化プラン）  
**全国フォーラム事業報告書**

---

主催:文部科学省  
企画:株式会社キャリアリンク  
発行:2019年3月

---